

## フランス古楽演奏会

# 夜が続くように

*Laissez durer la nuit*

エマニュエル・ジラルール

(ヴィオラ・ダ・ガンバ)

パリ・ソルボンヌ大学で美術史、国立東洋語学校で日本語を学び、パリ国立高等音楽院でチェロ、室内楽共にプルミエブリで卒業。卒業後、同音楽院の古楽器科において、バロックチェロと通奏低音を学ぶ。横浜国際音楽コンクール審査員。ヴィオラ・ダ・ガンバ奏者でもある。

現在、桐朋学園大学音楽学部の特任教授として、チェロ、ガンバ、室内楽を指導。宮城学院女子大学音楽科非常勤講師。

CDはバッハの無伴奏チェロ組曲『20th Century Folk Cello Solo』(N.A.T)、創設メンバーであるアンサンブル・マレラで、フォルグレの組曲をナミレ・コードより好評発売中。アンサンブル・マレラのシュベルトの室内楽作品、マレー《異国組曲》のCDをリリース。



ステファン・フュージュ

(クラヴサンニスト・ピアニスト・指揮者)

パリ国立高等音楽院クラヴサン科及び通奏低音科、ハーグ王立音楽院に学ぶ。ピアノをC.コラール、J.C.ベステイエ、クラヴサンをC.ルセ、P.アンタイの各氏に師事。2001年ブルーージュ国際古楽コンクール入賞。当初、古楽アンサンブル団体を結成し、カリオーブ・レーベルよりリリースされたハイドンの三重奏曲集には世界中の批評家から賛辞が寄せられる。約10年に亘りC.ルセ、J.C.スピノジ、M.ミンコフスキらの右腕としてコレペティートル等を務め、ウィーン国立歌劇場をはじめ、世界各地の主要歌劇場で公演を共にする。ル・コンセール・ダストレ主催の公演やアンサンブル・オパルサンス主催《魔笛》、東京ジョイ・バレエ・オーケストラ主催《レ・バラダン》等の公演で客演指揮を務める。現在パリ地方音楽院コレペティートル科教授。同音楽院にフランス国内初にして唯一のバロックオペラ科を創設、これまでに数多くのイタリア及びフランスバロックオペラ作品を指導・指揮。

クレール・ルフィリアートル

(ソプラノ)

17世紀フランスおよびイタリア古楽演奏に最も精通した歌手の一人として名声を博す。ル・ボエム・アルモニックをはじめとし、数多くのアンサンブル団体と世界各地の主要歌劇場で共演。オペラ作品をはじめ、マラー《交響曲第4番》、カントループ《オーヴェルニュの歌》、クラ《パンの笛》、ベリオ《フォークソング》、ジョンゲン歌曲の他ロマン派以降の作品にも至り、近代フランス歌曲を主軸としたリサイタル等も開催。B.ラザール、E.ロフゾー、A.ボリーらと共に数々の演奏会、音楽祭を展開、アンサンブル・オクサリスとの共演を果たす。また、E.グリーン監督『毎夜』、『ル・ボン・デ・ザール』、『ジョゼフの息子』の映画音楽の録音にも携わった。

豊富な舞台経験と知識を活かし、フランス国内外において多くの講習会やマスタークラスを積極的に開催するなど、後進の指導にも力を注いでいる。



# 2022年11月9日(水) 15時30分開演

## 場所：頌啓館K101ホール

(15時開場)

## 入場料無料/申込不要

～ アクセス・お問い合わせ ～

同志社女子大学京田辺キャンパス

〒610-0395 京都府京田辺市興戸南針立97-1

(近鉄線「興戸」駅より徒歩10分、JR学研都市線「同志社前」駅より徒歩3分(正門まで)

※駐車場はございませんので公共交通機関をご利用ください。

同志社女子大学学芸学部・文学研究科事務室(音楽学科)

Tel : 0774- 65- 8501

E-mail : ongaku-t@dwc.doshisha.ac.jp

HP : <https://www.dwc.doshisha.ac.jp>